大阪府社会福祉協議会・保育部会（大阪府保育協議会）

保育おおさか

No.476

平成27年4月1日

発行人　永野 治男　　編集人　齊藤 和正

大阪市中央区中寺1丁目1-54
TEL.06-6762-9001　FAX.06-6768-2426
http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/

大阪府平成27年度当初予算

「子ども・子育て支援新制度」施行に合わせ子育て支援施策を一層充実

大阪府平成27年度当初予算が可決・成立しました。保育サービスに関連する主な予算を抜粋し報告します。
子ども・子育て支援新制度及び「大阪府子ども総合計画」の実施に合わせた内容となっています。

（金額単位：千円）

事業名	事業内容	H26当初予算額	H27当初予算額	前年増減
施設型給付費等負担金※	市町村が支弁する民間認定こども園、民間保育所、小規模保育事業等における運営費用のうち、都道府県の法定負担分を市町村に交付。（新たに政令市・中核市分も法定負担）	7,677,193	20,119,858	12,442,665
保育対策総合支援等事業※	「待機児童解消加速化プラン」に関連する幼稚園における長時間預かり保育支援事業や認可化移行総合支援事業（運営費支援）などの事業を実施する市町村に対し必要な経費を助成。	277,970	294,420	16,450
子ども・子育て支援事業※	子ども・子育て支援新制度に基づき策定する「子ども・子育て支援事業計画」により、放課後児童クラブ（運営費補助）や地域子育て支援拠点事業などの事業を実施する市町村に対し必要な経費を助成。（新たに政令市・中核市分も法定負担）	3,998,866	5,047,933	1,049,067
保育所等整備事業※【安心こども基金活用事業】	待機児童解消のための民間保育所の創設・増築や老朽施設の改築による環境整備、認定こども園等の整備を行う市町村に対し必要な経費を助成。	13,185,400	10,493,135	▲ 2,692,265
子育て支援人材確保事業	子ども・子育て支援新制度における必要な保育士を確保するため、潜在保育士の就業を支援。	0	14,317	14,317
地域福祉・子育て支援交付金	市町村が地域の実情に沿って「地域福祉」、「子育て支援」及び「高齢」の各分野の事業を実施できるよう交付金を交付。	1,990,856	1,990,856	0
地域福祉・子育て支援交付金「子育て支援分野特別枠」	創設時に５カ年（平成26年度まで）という時限設定であった左記交付金について、平成27年度より始まる子ども・子育て支援新制度のスタートアップに伴い、激変緩和措置として、市町村子ども・子育て支援事業計画の達成に向けて引き続き市町村に交付金を交付。	500,000	300,000	▲ 200,000
新子育て支援交付金	市町村における乳幼児医療費助成をはじめとした子育て支援施策の充実を支援するため、交付金を交付。	0	2,200,000	2,200,000

※の事業の平成26年度予算額は、平成27年度の事業内容に沿って、平成26年度の該当事業予算から積算した額です。

春です。日中はポカポカとあたたかく、眠気に誘われます。ところが、今朝の新聞に「睡眠。そろそろ限界？眠らない日本人」というタイトルを発見。読んでビックリ。長時間労働、夜勤の増加、ストレスなどから日本人の睡眠時間は年々短くなり、世界でも1、2位を争う〝眠らない国〟になってきているそうです。日本の大人の平均睡眠時間は7時間50分で世界第2位の短さ。一番よく寝ているフランスに比べると1時間も短く、赤ちゃんは最下位！子どもの睡眠時間が短いと、身体の発達遅れ、学力低下などの影響を受けるようです。

大人も日中のパフォーマンスが3割以上低下し、そのうち6割の人が睡眠不足などの自覚症状がない結果が出ていました。

さて、子ども・子育て支援新制度がいよいよスタートしました。まだまだ十分に理解できていないことの多い私としては、教育・保育時間の設定など次年度に向け、頭を悩ませる日々。

たっぷりと睡眠時間を取れる日が来ることを願いつつ頑張ります。

（編集委員Y・T）

各ブロックで フォローアップ研修

各ブロックの企画により開催されたスマイルサポーターフォローアップ研修の概要を紹介します。

北摂ブロック

3月4日、18日に茨木市福祉文化会館で開催。

大阪府社協・社会貢献支援員が対応した事例をもとに事例検討。これとは別に、参加したスマイルサポーターが対応した事例を持ち寄り、事例検討を行いました。

河内ブロック（八尾）

3月16日にサポートやおで開催。

大阪府社協・社会貢献支援員が「老人福祉施設における社会貢献事業」の概要を説明し、事例検討を行いました。

久宝まぶね保育園園長・五十嵐宏枝氏からの「保育園における地域貢献事業」の実践報告がありました。

河内ブロック（東大阪）

3月23日に東大阪市立総合福祉センターで開催。

「東大阪市いきいきネットCSWの実践報告及び事例検討」をテーマに、CSWの役割、活動の報告がありました。

また、CSWとスマイルサポーターとの情報交換も行われました。

10年間で4,044件の経済的援助

―地域貢献事業推進委員会―

先月号1面で掲載しました「オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業」について、事業の2本の柱のうち「生活困窮者レスキュー事業」は、平成16年度より老人施設部会が実施している事業です。下記の表は平成25年度の経済的援助の実績です。実績から各地域において経済的援助の事例があることがうかがえます。10年間の実績は、4044件、3億9708万3000円です。保育部会では定員1人あたり1000円を特別部会費と定め、同事業の推進をサポートする社会貢献支援員の配置費用・活動費などとしての拠出をお願いします。

現在、府内に社会貢献支援員が20人在籍していますが、保育部会などが拠出することで30人への増員が可能となり、施設と社会貢献支援員の連携がよりスムーズになります。

【北摂ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
島本町	0	0
高槻市	10	860
茨木市	8	800
摂津市	9	850
吹田市	26	1,020
豊中市	12	1,010
箕面市	2	170
池田市	6	490
豊能町	3	66
能勢町	1	52
合　計	77	5,318

【北大阪ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
枚方市	5	270
交野市	9	150
寝屋川市	11	550
守口市	5	340
門真市	26	1,020
四条畷市	12	310
大東市	16	1,430
合　計	84	4,070

【河内ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
東大阪市	49	2,620
八尾市	23	670
合　計	72	3,290

【堺ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
堺市	17	1,130
合　計	17	1,130

【南大阪ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
柏原市	1	10
松原市	21	1,900
羽曳野市	11	430
藤井寺市	9	140
太子町	5	90
河南町	2	80
千早赤阪村	0	0
富田林市	26	860
大阪狭山市	14	850
河内長野市	8	510
合　計	97	4,870

【泉州ブロック】

市町村名	件 数	金額(千円)
高石市	2	170
和泉市	15	650
泉大津市	12	250
忠岡町	1	100
岸和田市	22	1,620
貝塚市	13	990
熊取町	3	200
泉佐野市	22	1,600
田尻町	0	0
泉南市	6	330
阪南市	11	200
岬町	2	110
合　計	109	6,220

【大阪市】

市町村名	件 数	金額(千円)
大阪市	56	4,450
合　計	56	4,450

全体ブロック	件 数	金額(千円)
合　計	512	29,348

本の紹介

大東わかば保育園 山本良一園長が本を出版されました。

大切なことは みんな 保育園で学ぶ

DVD付録付

価格 2,000円（税、送料込）

購入をご希望の方は大東わかば保育園までFAXにてご連絡をお願いいたします。

大東わかば保育園　FAX 072-878-4146

赤い羽根OSAKA

共同募金配分申請のご案内

今年も10月から実施される平成27年度（第69回）共同募金運動開始に先立ち、共同募金配分申請受付を次のとおり開始します。

対象●大阪府内で行う民間社会福祉事業、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を行う法人・団体。

受付期間●平成27年５月１日から５月20日まで

問い合せ先●大阪府共同募金会
TEL.06-6762-8717　FAX.06-6762-8718

MAIL●ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp
（件名に「配分申請」と明記してください）

URL●http://www.akaihane-osaka.or.jp

新制度に向け、ていねいな準備と説明を

ネットワークで地域の子育てを支える

幼保連携型認定こども園

高槻市

浦堂認定こども園

浦堂認定こども園では新制度施行にあたり、保護者総会、行事、園のおたよりなど機会あるごとに、待機児童が多く1号定員は設けない、名実ともに3歳以上の教育・保育を行う施設となることなどを説明してきました。

「読み書きそろばんをするのか」との質問には、小学校教育の前倒しではなく、遊びを中心とするさまざまな体験を通して学校教育の基礎を培い、生きる力を養う教育・保育を行うと答えられています。

保育利用料の徴収に関しては、数年前から園児登降園・保育管理システムを構築し、個別対応可能な銀行振替システムを導入し準備されてきました。

また、平成25年度から、小学校職員との懇談や、学校行事や授業に5歳児が参加するなどの連携を強化し、小学校での生活の見通しをもって卒園できるよう配慮されてきました。

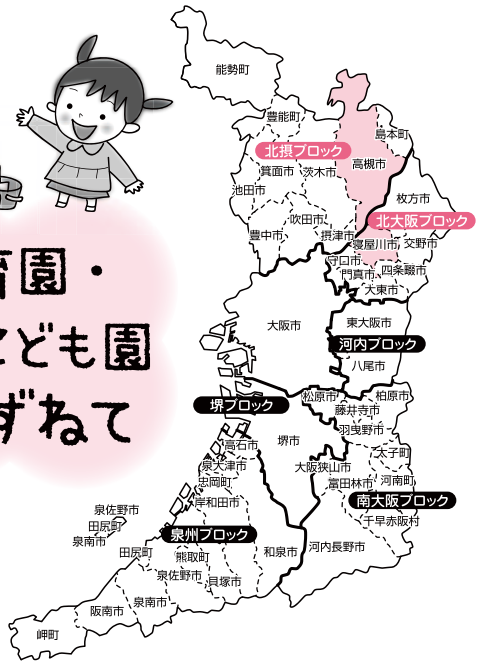
思い思いに遊べる園庭と園舎

地域子育て支援としてはこれまでも園庭開放や地域向け行事を行っておられましたが、地域の0～2歳児の8割が在宅で子育てしている現状に対し、ボランティアが家庭を訪問する「ホームスタート」事業を開始されます。

必要なところに必要な支援を確実に届けるため、高槻市の私立保育園を中心に、ひろば事業を運営するNPO法人、子育て支援センターや保健センター、社会福祉協議会や民生委員児童委員、地区福祉委員なども含めた子育て支援ネットワークとの連携を強化し、虐待防止や貧困の連鎖の解消につなげていきたいと話されました。

（編集委員K・M）

小学校の授業に参加する5歳児



保育園・認定こども園をたずねて

513

第3きんもくせい保育園

寝屋川市の深北緑地近くに位置し、4月から10人増の定員70人となった保育園で、前号で紹介した第二きんもくせい保育園の姉妹園です。

地域の老人会と交流を行っており、豆まきやクリスマスではおじいちゃんたちが変装して参加、餅つきでは力仕事に一役買っていただきます。終了後は園児と過ごします。

春には、保護者参加の行事を2つ行っています。1つは、保育参観です。初めて園児を預ける保護者も輪の中にとけ込めるよう、ゲームや自己紹介などを取り入れています。

もう1つが、春の遠足です。普通は片道1時間以内を想定しますが、保護者同伴で行うため、王子動物園や須磨水族館への遠出が可能です。長時間の道中や到着後のレクリエーションでも保護者同士がふれあう時間を取り、「親子を一人ぼっちにさせない（孤立させない）」よう留意しています。

「おからもち」をクッキング中

以前から食育は行っていましたが、調理を委託するようになり、業者のノウハウが加わったことでより充実するようになりました。

毎月のイベントでは①食育（大根や竹の子などの食材を触ったり、先生の話を聞く）②チャレンジ（とうもろこしの皮むきをしたり、菜園でサツマイモを植える）③クッキングと3パターンあり、趣向を変えて0歳～5歳までが楽しく親しめるようにしています。

なお菜園は、専門外のことであり、日当たりの悪さもあって「うまく育たない」と嘆いておられましたが、日々研究されています。

（編集委員J・H）

ジャガイモを植えたり、大根のお話を聞いたり

地域や保護者といっしょに育つ

老人会との交流、親子遠足、食育の取り組み

保育所

寝屋川市

第3きんもくせい保育園

すべての学びは“体験と経験”から
最高の思い出を作るメモリーメーカーであり続けたい

幼保連携型認定こども園
堺市 鈴ノ宮（すずのみや）保育園

JR津久野駅から泉北2号線沿いに南東へ。鈴ノ宮保育園は、38年にわたり地域の子どもたちを見守り続けてきました。

「子どもたちが健やかに育つ場」、「たくましく生きる力を育む場」として数年前に建てられた新園舎は、開放感あふれる素敵な空間です。〝徳育・食育・知育・体育〟を4本柱に掲げ、豊かな体験を大切にした保育が展開され、科学あそび、音楽活動、高齢者との交流、体育教室など実施しています。

食育にも力を入れられ、キャベツ、ブロッコリー、じゃがいも、いちごなど菜園で育てる種類も豊富です。

また、一年を通して行われる〝醤油作り〟は本格的で、麹と塩と水で「もろみ」を作り育てて行きます。本来、醤油作りで行う櫂（かい）入れ（大きな樽に入れた醤油を櫂でかき回す）はペットボトルを振ることで代用。子どもたちの手でやさしく大切に育てられ、1年後〝鈴ノ宮ブランド醤油〟に生まれ変わります。透きとおるような醤油を使って大鍋で炊き出し体験。収穫した食材を洗う、切る、大鍋で煮る…味見も子どもたちの手で！新鮮な食材と醤油の香りに包まれ、瞳を輝かせて大鍋を覗き込む子どもたちの姿は微笑ましく、また先生方の想いや願いを感じ温かい気持ちになりました。

“鈴ノ宮ブランド醤油”の完成！

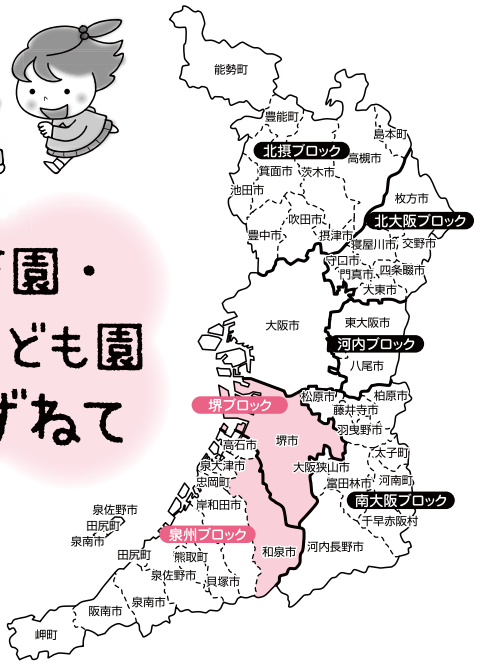
4月から幼保連携型認定こども園になりました。

「興味や関心から心を動かし学ぶことが幼児期の教育では大切。体験や交流が宝となってくれれば」と語る一木敬子園長。子どもたちへの深い愛情を感じました。

（編集委員Y・T）

子どもたちの笑い声が響く園庭

保育園・認定こども園をたずねて 514



てらかど保育園は和泉中央駅と和泉府中駅の中間に位置し、桜並木と大きな池が近くにある定員150人の保育園です。今年2月に大規模修繕を終え、30周年を迎えられました。

建物は創設当時としては珍しい鉄筋2階建ての園舎。大規模修繕で、良さを残しながら新たな一歩を踏み出すこととなりました。職員の意見を取り入れ保育室を改良、家具を木目調へ一新、防犯対策を強化、全照明をLED化するなど、より園生活を楽しめ、かつ保育を行いやすくなりました。

桜に囲まれた園庭

四季折々の自然に囲まれた環境の中で、設立当時から幼稚園と同様の教育を目標に音楽、英語、体育遊び、スイミングなどを活発に行い、姉妹園と合同で「器楽合奏大会」に参加するなど、さまざまな体験を通じて健全な成長とともに創造性や協調性を育成し、将来子どもたちが自分の適性を知るための素地になるようにと考えられています。

前理事長の飯坂辰一氏が植えた桜並木は池の周りを彩り、地域の桜の名所となっており、4月の入園式には春の陽気のなか、桜の木々が園児を祝ってくれているかのようです。

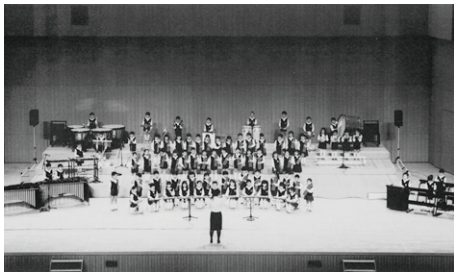
緑に囲まれた園ではお花好きな先生も多く、時間を見つけては花々のお世話をしてくれています。

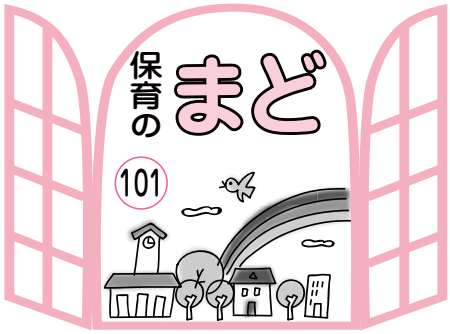
地域の緑の中心としてだけではなく、4人在籍するスマイルサポーターが積極的に活動し、地域の子育て世代が安心して相談できる場にしていきたいと語っておられました。

（編集委員K・A）

30周年を迎え、新たな一歩を踏み出す
地域に親しまれ、頼られる場所に

保育所
和泉市 てらかど保育園


毎年参加の器楽合奏大会



シリーズ●より良い保育士養成のために

保育士養成校・いまどき事情③

学びの変化

大阪城南女子短期大学　松本　敦

山中さんの研究スタイルでも、分厚い教科書など読まずに、まず実験を始める。その中でどうしても必要なことがある時に、そこだけ読む。必要なところだけ読んで他は無視する。それでやってきたと語っていました。

「学び方を学び」「表現方法と交渉力」を身につける

伊藤さんは、「誰かに教わる、与えられるものが教育、自ら求めるのが学び」だと言います。Lerning Over Education（教育より学び）です。知識が多いとリスクばかり考えて何もできなくなる、何も変えられない、今までどおりで終わってしまう。今、世の中はすごいスピードで動いているので過去の情報で動いていると未来にいけなくなってしまうというのです。

こうした同時に多様な情報が大量に飛び交う時代では、正確に伝える力、聞く力がより大切になると言います。つまりはプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力です。

大学で「教育」の場にいると、その古さをつくづく感じます。何百年も前と同じ教室のスタイルでの講義風景、まだまだ残っています。なかなか自分たちを変えられません。

文部科学省は、「サービス・ラーニング」（教室外での学び。インターンシップやボランティアも含め）をもっと取り入れろ、「アクティブラーニング」（自ら考え学ぶ時間）を増やせと言って来ます。私の短大でも「アクティブラーニングのための教室設備」を掲げるとすぐに補助金がつきました。

ただ、その設備をどれだけの教員が使いこなせるのか。教員研修が増えていきそうです。メディアを変えれば、使えば新しいのか？そういう問題ではないでしょう。学生たちがどうすれば、「学び方を学び」「表現方法と交渉力（発信と受信）」を身につけることができるのか。やはり今までどおりではない相当の工夫が必要でしょう。

幸い、保育の養成には、必ず「実習」という現場がついてきます。まさに、今、動いている場所に飛び込んでいけます。「考えるより行動する」「考えてばかりいないでまず動く」機会が与えられる場です（もっとも、もっとしっかり考えてから来いとも言われそうですが…）。学生たちには、体験し、体感し、ようやく何を学べばいいのかが見えてくるようです。

「ナウイスト」行動から学ぶ好奇心

『ブレイン・ルール』という脳活性化の著者、ジョン・メディナ博士は脳を活性化させる12のルールをあげて、最後の12番目にこうふれています。

「2歳の息子と保育園に向かう途中、息子は舗装道路の中の小石を見つけました。彼はしゃがんで小石を調べるとうれしそうな笑い声を上げました。続いて舗装道路の割れ目から伸びた草を見つけると、そっと触れて笑いました。お次は地面にへばりついてアリの隊列の観察です。虫を運ぶ姿に手をたたいて大喜び、細かなチリやさびついたネジ、油のシミ…15分で進んだ距離はたった6メートル。

私は息子を促し保育園へ向かおうとしました。そのとき息子を見ながらふと思ったのです。6メートルを15分かけて歩いたのはいつ以来かと。

私には、脳を操る究極のルールは分かりません。でもこう信じています。息子から学んだとおり大事なのは好奇心だと」。

行動から学ぶ好奇心、子どもは本来「ナウイスト」だったのです。学生たちも、もっと子どもから学んでほしいものです。

インターネットのない時代BIと(Befor Internet)とインターネット後の時代AI（After Internet）では、働き方も学び方も違ってきたというのです。BIでは、何かをするときに、しっかり知識をためて、準備して、取りかかることが必要だったが、AIになると、知識はいつでもどこでも携帯ひとつで取り出せる。いつでも必要な人と情報につながれる時代では「考えるより行動する」ことが必要だというのです。それを伊藤さんは〝NOW-ISM〟（現在主義）とよび、自分は「ナウイスト」だと言っていました。

BIとAIでの働き方・学び方の変化

2015年1月に放送されたNHKの「スーパープレゼンテーション新春SP」という番組の中で、伊藤穣一さんと山中伸弥さんの対談がありました。

伊藤穣一さんは、1966年生まれIT企業家でMITメディアラボ所長。山中伸弥さんは1962年生まれ、ご存じのようにiPS細胞の樹立でノーベル生理学・医学賞を受賞した方です。

このお二人の対談がとても刺激的でした。

ブロックだより

OSAKA

北大阪

無理せず焦らず一緒に考えていく姿勢を
―保育士研修会

1月20日、エル・大阪で、平成26年度北大阪ブロック保育士研修会が開催されました。

研修会では、講師に臨床心理士の大畑豊氏を招き、「日頃の保育現場における特別な支援が必要な保護者及び家庭支援」と「障がい受容」というテーマで、講演が行われました。

大畑豊氏

支援を必要とする保護者の特徴として

①仕事が忙しくて子育てに時間がとれない
②保育園からの連絡を守らない
③気持ちが不安定
④ほめることができずにしかることが多い

などがあり、また、さまざまな家庭環境があること。各家庭の事情を配慮し、関わり方も個々に合わせた対応をすることが必要である。

子どもの障がいに対する受容について、特に保育園の段階では保護者が子どもの障がいを受け入れられない場合が多く、どこでどのような方法で障がいを認知するかは人による。

「早期発見、療育が良いとされているが、障がいを認めていない中で、専門の機関を保護者に勧めても受け入れられない。今、子どもが抱えている問題を伝え、無理せず焦らず、一緒に考えていく姿勢が大事である」と保護者の気持ちに寄り添うことを強調しました。

まずは保護者との信頼関係を大切にし、何事も一緒に考えていくことを実践してみようと思いました。

（太陽保育園K・I）

南大阪

熱戦のサッカー大会
共通の目標に向かってさらなる成長を

2月24日に太子町立総合スポーツ公園で、恒例の年長児卒園記念サッカー大会が開催されました。

21カ園から582人の園児が参加。優勝トロフィーを目指して熱戦が繰り広げられ、天候にも恵まれ、平日にも関わらずたくさんの保護者の方も応援に来られました。

参加園児数の増加に伴い、男児・女児・混合の3リーグに分かれての試合となりましたが、試合中の真剣な眼差し、勝って喜ぶ姿、負けて涙する姿など、どの園児も子どもらしい素敵な表情を見せてくれました。懸命にボールを追う姿には感動があり、観戦する保護者や引率の保育士が子どもたちを応援する声も次第に大きくなりました。

回を重ねるごとに年々レベルが上がり、年長児とは思えないプレーを見せてくれます。日常の保育においても、本大会を一つの目標にサッカーに取り組んでいる園も多いようです。

目標に向かってクラスの友だちと協力することや、人前で思い通りプレーすることができず悔しい思いをすることなど、勝敗に関わらず、サッカーを通して子どもたちはかけがえのない経験を得たと思います。

トロフィーを手にした園児も、残念ながら手にすることができなかった園児も、大会終了後の記念撮影では清々しい表情を見せてくれました。保育園生活の良い思い出のひとつになったようです。（編集委員R・Y）

熱戦！サッカー大会

よりみち

（先月号からのつづき）

以後 計5回に及ぶ炊き出し支援も最終は三宮近くの小野柄（おのえ）小学校で自衛隊が来ていて、炊き出し用の湯が要るなら声掛けがあった!!凄い設備に驚嘆！流石！自衛隊。最終日で、仲間も自薦他薦の方々で60～70人が居て、中には高校生の娘さんにも支援活動の経験をと参加された方もいた。売れ筋は大根・蒟蒻で、噂によると西成から神戸へ移動している方々らしき姿も。

手透きとなったので数名と長田区へ。町は真っ暗で未だ焼け跡の臭いがする中を見回った。

全堺の園からの仕込みも数回続くと上手なモノで、3回目辺りから、私の担当するおでんは、地域の夏祭りには千個以上を仕込んでいるから手慣れたモノ。ひとつ感心したことは浜寺保育園の調理師さんが、炊き上がった大鍋の大根をスチロール箱に移すのに、角が潰れたらあかんからと、竹串頂戴。見事に箱に詰められた技はお見事！仕込みは朝一から煮干昆布の水漬け、牛筋の煮込みと脂抜き、鶏ガラのスープの下準備は前日に、自園で行った。餡掛けソバも同様だ。

二十年前の阪神・淡路大震災
未曾有の災害発生、手探りの支援へ（2）

このコラムを書く段になってネットで行った場所を探したが最終日の炊き出しを行った小学校は別の建物に変わっていた。

道具は、大カロリーの熱源が必要で、バーナーを5台調達した。此に掛かった経費は保育部会に集まった約1000万の募金から賄われた。東日本大震災の時にも募ったが、遥かに少ない感じがした。阪神・淡路大震災の募金収集にはひとつのカラクリ!?が有り、いつかそのカラクリを告白致します。

計5回に及ぶ炊き出し支援には、多くの保育部会会員の協力を戴いて成しえたこと、名前を出せなかった先生方に心より感謝を申しあげます。又、近くで斯様な事変あれば、助けの会を編成して行きまひょか。

世の中、もちつもたれつ、狭い日本。困ったら助けあいが当たり前や!!

オール大阪もよろしくご協力を!!

（H・N）